

< 第10回 江戸川区景観まちづくり賞：総評 >

今回で第10回目を迎える景観まちづくり賞ですが、まちなみ建築部門からは10点の応募があり1点が受賞、まちづくり活動部門からは3点の応募があり2点が受賞という結果となりました。

(1) まちなみ建築部門の応募内訳は、大規模な共同住宅が3点、保育園・幼稚園・診療所が1点ずつ計3点、低層専用住宅が2点、その他工場倉庫等が2点という構成でした。

優れた景観にとって重要なのは、見た目の美しさに加えて、街へ向けて何らかのメッセージを語りかけようとする姿勢と表情です。施設の規模が大きくなれば、広場や遊歩道、緑などの整備による近隣への貢献も欠かせません。そのような観点から、今回は「プレミスト新小岩親水公園」を選出しました。

「プレミスト新小岩親水公園」は、小松川境川親水公園（景観重要）に面する共同住宅で、親水公園側の高さを抑えると共に、バルコニーデザインのさわやかな壁面構成によって圧迫感を軽減し、落ち着きのある雰囲気を作り出しています。外周部の植栽帯には中木が多く植えられ、ブロック材の構成による門柱風の小柱や低い壁などのアクセントが街へ向けての親しみやすさを生んでいます。

区の景観資源としての親水公園に隣り合う建物として、また江戸川区らしさを育んでくれる外周部の構成は、景観まちづくりの今後の重要な方向を示してくれる好例だと思います。

なお今回、他にも豊かな緑を配した応募作が何点かありましたが、居住者だけでなく近隣者もちょっと立ち寄ることができたり、憩うことの可能な工夫が加わることで、街への貢献度が高まるだろうと思われました。

(2) まちづくり活動部門では、コロナウィルス感染拡大予防のため、思うように活動できなかったグループも多かったために応募は少数でしたが、以下の重要項目に加えて、活動年数や頻度、参加人数、などを考慮の上、「区立二之江第三小学校」と「ゆきやなぎプレーパーク小松川の会」の活動を選出しました。

景観的な美しさに加えて、人々の営みを表す活動や場所の記憶を呼び起こす活動

江戸川区らしさを伝え、探り出そうとする活動（伝統文化や産業の伝承と発掘）

樹木や草花の育成・手入れを通して、より充実した景観形成へ向けての活動

「区立二之江第三小学校」の活動は、景観まちづくり体験を通しての地域学習で、児童作品を地域資源でもある新川（景観重要河川）に展示することで、周辺へ向けて発信する貴重な役割を果たしています。特に今年度からは二之江小学校と統合されたこともあり、地域と一丸となったさらなる展開を期待したいと思います。

「ゆきやなぎプレーパーク小松川の会」は、子ども達が自由な発想で遊び回れる場を提供し、さまざまな世代の交流を生み出すことで、活気あふれる景観づくりと地域力の醸成に寄与しています。特に、休校が多い中で、いち早く子どもの居場所を取り戻すために尽力し、早期に活動を再開させた点も評価したいと思います。